



**写真等無断転載禁止**

2022. 5. 6 発行 ニュースレター第297号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表：小西 由希子

E-mail: yatsudasakisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

## お米にまつわるミャンマーの話

### ～第1回：意外と知られていない日本とミャンマーの深いつながり～

千葉市若葉区 岩沢 久美子

皆さん、「ミャンマー」という国をご存知でしょうか？「ビルマ」と言った方がしっくりくる方がいるかも知れません。東南アジアのインドシナ半島西部に位置する「アジア最後のフロンティア」と言われたこの国に、私は、2016年から2020年までの約4年間、幼い娘を連れて住んでいました。私自身、お恥ずかしながら、ミャンマーに引越すまで、子供の頃にテレビで見ていた民主化運動リーダーのアウンサンスーチー女史の記憶とアジアの仏教国くらいの知識しかありませんでした。ただ、暮らしてみると、人々がとても穏やかで親切、そして大の子供好きで、娘も私もミャンマーという国が大好きになりました。年長者を敬い、礼節を重んじる文化は日本にも強く通じるものがあり、特にそれまで文化圏の違う国での生活が長かった私には、とても親近感が湧きました。そして、この国を知るごとに、ミャンマーと日本との文化的・歴史的な深い関わりを知るようになりました。

たくさんご飯を食べます。ミャンマーにきた当初、ミャンマー人の同僚と行った食堂で大きなお皿にお茶碗2杯分くらいの山盛りのご飯が出てきた時は驚きましたが、隣で細身の若い同僚女性がぺろっとその大量のご飯を平らげたことにさらに驚きました。



ヤンゴン市の風景

自宅のベランダから撮った景色。ミャンマーの最大都市だがとても緑が多い。左奥に見えるのが、シュエダゴン・パゴダ。ヤンゴン市の条例で、このパゴダより高い建物は建てられないことになっている。

実は、このミャンマー人も大好きなお米に、かつて日本は助けられたことがあります。第二次対戦後、日本は深刻な食糧難に直面していました。その際、真っ先に食糧支援として日本に米を送ってくれたのがミャンマーでした。戦後の日本人は、ミャンマー米を食べて、戦後の食糧難を生き延びることができたのです。そんな歴史を知ると、この国のことを少し身近に感じてもらえるかも知れません。

私たち家族に楽しい思い出をたくさん作ってくれたミャンマーですが、昨年2月の軍事クーデターにより、一気に状況は暗転し、現在も解決の糸口が見えていないのが現状です。けれども、私が記憶しているミャンマーは、穏やかな笑顔を絶やさない人々と緑あふれる美しい国です。そんな大好きなミャンマーという国を皆さんにも少しでも知っていただきたく、「お米にまつわるミャンマーの話」という形で少しずつ、ミャンマーの食文化や暮らしについてお話ができれば考えています。今後ともよろしくお願いたします。



シュエダゴン・パゴダ

ヤンゴン市にあるミャンマー仏教の聖地。パゴダとは仏塔のことで、高くそびえ立つ黄金のパゴダはヤンゴン市のランドマーク的存在。

数あるつながりの一つが、今日お話するお米にまつわるつながりです。ミャンマーでは日本と同様、お米が主食です。熱帯性で雨も多いミャンマーでは、2期作、3期作が可能で、年間通して米生産が盛んです。米粉で作った麺もよく食べますが、日本と同様、白いご飯をヒンと呼ばれる油たっぷりのカレーと一緒に食べるのが最もポピュラーな食べ方です。ただし、量に関しては、日本では考えられないほど

# 「割り箸リサイクルプロジェクト」終了のご報告

～20年間どうもありがとうございました～

埼玉県草加市 伊原 香奈子



皆様のおかげで長年続けてまいりました「割り箸リサイクルプロジェクト」ですが、割り箸を受け入れてくださっていた事業所側のご都合により、このたび大変残念ではございますが終了することとなりましたので、ご報告させていただきます。

この長い年月、思い起こせば本当にいろいろなことがありました。

20年前、当時の恒例行事だった「ちば環境情報センター」の宿泊研修会で、たった2人で立ち上げた小さな企画。それがまさか関東エリアを超えるほどに広がりを見せる大きなプロジェクトにまで成長していくとは、当時の誰もが思いもしなかったことでしょう。



初期のころは、使った割り箸が紙の資源としてリサイクルできるなんて知らない人ばかりで、講習会や説明会などを開催したり、イベントやお祭りで実際に割り箸を回収しながらアピールしたり、千葉市内のボランティアセンターや千葉県庁といった公共施設の協力も得たりしながら、啓発活動に全力を尽くしていました。その甲斐もあり個人や飲食店などの協力者も増え、年々割り箸の回収量は伸び、最盛期には1年間で3トンを超える割り箸を回収することができるほどまでになりました。その後、中国で割り箸の輸出規制があり高額になったのを機に、飲食店の多くが樹脂箸（洗って繰り返し使えるお箸）に切り替わる中、それでも使われ続ける多くの割り箸を少しでも資源へ変えれたらと啓発し続け、ふと気が付けば20年もの歳月が経っていました。そして割り箸リサイクルの総重量も、なんと20トンを超えるまでになっていました。

こんなに長く続けてこられたのも、割り箸を受け入れて工場まで運んで下さったS事業所様のご厚意があったおかげであり、また、関わってくれた多くの方々のボランティア精神に支えられてきたおかげです。もちろん大変な



こともたくさんありました。でも、同志と共に作り上げ、困難を乗り越えながら継続し続けてきた素敵な思い出が、今はいっぱい心によみがえってきます。皆さまには、ほんと感謝しかございません。

社会全体でSDGsの意識が高まり、資源循環やリサイクルなどにも一段と関心が高まってきたこのタイミングで終了となることは、正直、大変残念ではありますが、割り箸リサイクルそのものがこの世から消え去るわけではありません。送料はかかりますが、王子製紙(株)の工場へ直接送ればリサイクルをすることは可能ですし、当センターのホームページでも「割り箸リサイクル」のページは残す予定です。形は少し変わりますが、今後も細々と啓発し続けていく予定です。



回収した割りばしの洗浄

最後となりますが、会員の皆さまはもちろん、関わってくださった多くの皆さまに、温かいご支援とご協力をいただきましたことに、心より深く感謝申し上げます。これを持ちまして、割り箸リサイクルの「プロジェクト」は、終了です。本当にどうもありがとうございました。

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

トヨタ財団の第4回研究コンクール「身近な環境をみつめよう」に「よみがえれ新浜 水質浄化と水鳥の誘致」というテーマで参加し、1989年に最優秀賞を受賞した私たち。当時は財団法人を目指していて、ご寄付や物品の販売などでそれまでに貯めていた1千万円ほどに加え、最優秀賞の賞金として基金の形で2千万円を得て、いよいよ目標の3千万円をつくることができました。しかし、日本野鳥の会が財団となった時には3千万円であった基本財産額は、それから20年近くたった当時には、「おおむね1億円」と言われました。とても手が届く金額ではありません。

水質に関連して、「水色モニター」という活動を何年か続けていました。これは夏のいちばん暑い時期である7月20日から8月20日までの32日間、身近にある水辺を毎日眺めて、水の色や気づいたことを記録して行くというものです。丸浜川は調査をはじめた年には32日中20日以上、水が真っ黒でした。ところが、水車をまわしてまる3年ほど経過した1989年には、水が真っ黒になる日は数えるほどしかなく、アオコの発生を示す濃い緑色になったり、水が滞留していちばん汚れている猫実排水機場の遊水地では、気味の悪い赤い筋が入っていたりしました。これはなんと「ミジンコの大発生」。なんでも「〇〇養魚場」とネームが入った軽トラックがミジンコ取りに来ていたとか。

当時のことは、「小説家になろう」というウェブサイトの「鳥の国から」に書いています。「すずがも通信」に連載していた記事を再録したものです。久しぶりに読み返してみると、文字通りの「死の川」となっていた丸浜川が水車による酸素の導入で少しずつ息を吹き返して行く様子、汚濁の指標である

ユスリカ幼虫の赤虫やイトミミズが戻り、それどころかカダヤシなどの小魚に加えて中～大型の魚まで泳ぐようになり、釣り人が糸を垂れているところに行き遭った驚きなどが描かれています。

通常の業務の上でも、大きなできごとがありました。プレハブ2階建てで1階が管理人棟として蓮尾家が住み込みで働いていた旧観察舎のかわりに、現在も使われている傷病鳥舎と管理人棟が作られました。1976年1月の旧観察舎オープンとほとんど同時に、いつの間にか仕事の中心となっていた傷ついた野鳥の救護。紆余曲折のもと、ついに千葉県の公式な業務として組み込まれ、プールのついた救護棟が造成されることになったのです。

ともかく時間と手数のかかる傷病鳥扱い。それも、環境保護の本筋にはずれている。今でこそ堂々と野鳥病院と呼べるようになりましたが、亡夫嘉彪が言っていたように、獣医師の免許ありとは言っても血管注射さえ自信がない嘉彪が唯一の獣医師。私は畑違いの林学科出身。ただ鳥が好きだというだけで、どっぷりと浸っていた野鳥観察舎で、傷ついた鳥を何とか助けてほしい、と持ち込まれる鳥を「お断りする勇気がなかった」ばかりに始めてしまったもの。それでも他の生命をいつくしみ、思いやる気持ちこそ、環境保護の芯にあるものと信じています。しかし、野鳥病院を続けているかぎり、たとえば環境学習に携わる時間や、環境管理に関わる時間を作ることがほんとうにたいへん。いっそ切り捨ててしまおうべき、と再三再四言われることも、もったもた、と重々感じてはいたのです。

## 下大和田水質調査レポート (前編)

千葉市中央区 新井 桂二

### はじめに

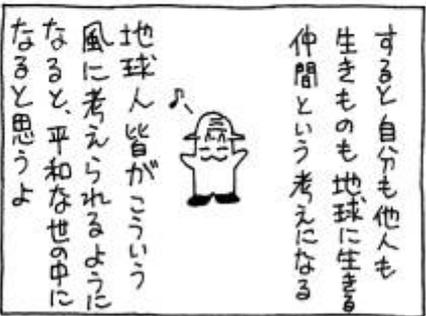
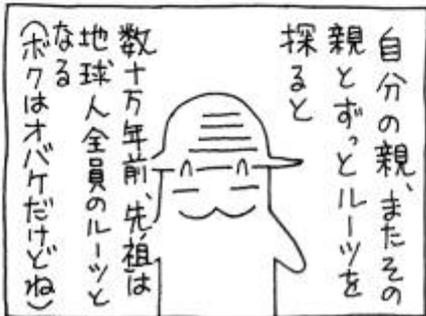
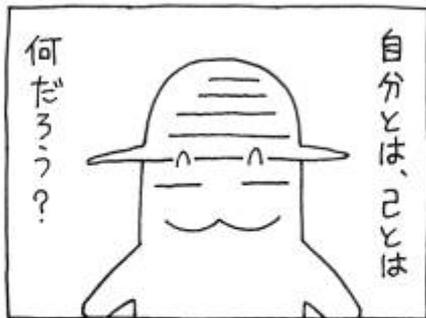
退職後、非常勤講師の職も辞し、老父母の介護のかたわら、夜討ち朝駆けで水生生物調査を本格始動し、その一環として、水質調査を追加することにしました。まだまだ測定機器等も手探り状態ですが、折角ですので千葉市緑区下大和田との比較など紙面を借りてご報告していこうと思っています。

水質調査を追加した理由は千葉県の河川水は上流域においても、一見して飲めるようなものではないですが、魚類にとっては棲みやすい水なのだろう

か。素朴な疑問として持ったからです。一説によると千葉県の水は硝酸塩濃度が高く、棲める魚種も限定されるらしいので、そのあたりを踏まえて調査していこうと思っています。

### 1. 調査方法

昨年度はパックテストにより、 $\text{NH}_4^+ \cdot \text{NO}_2^- \cdot \text{NO}_3^- \cdot \text{PO}_4^{3-} \cdot \text{COD}$ を計測、測定器でpH・水温、CHEMetsキットでDO(溶存酸素量)の計測を行いました。



つやまあきこウェブサイト  
21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

## 2. 各指標の説明

$\text{NH}_4^+$ : アンモニウムイオン。  
生物体内でタンパク質(アミノ酸)が分解されるときに生ずる猛毒。軟骨魚類やダイオウイカなどはこれを有効利用していますが、硬骨魚類以降では肝臓で解毒し腎臓で濾過・排出しています。水中に溶存すると多くの生物の生命維持に支障をきたします。生物が排出する程度の量なら硝化細菌によって、直ぐに無害な硝酸イオンまで酸化され、残留量は微量となります。

$\text{NO}_2^-$ : 亜硝酸イオン。  
ヒトに対しても発癌性などを持つ猛毒。上記のアンモニウムイオンが硝化細菌の一翼である亜硝酸菌によって酸化されるときに生じます。健全な自然界では直ぐに硝酸菌に吸収されるため、あまり濃度が高くなることはありません。

$\text{NO}_3^-$ : 硝酸イオン。  
硝化細菌の一種の硝酸菌が前述の亜硝酸を吸収して酸化することによって生ずる。無毒といわれていますが、限度はあります。余分に吸収された硝酸イオンが体内で還元(酸素が外される)と亜硝酸イオンとなり当然発癌性がありますし、メトヘモグロビン血症という血液の病気になり易いといわれます。

$\text{PO}_4^{3-}$ : リン酸イオン。  
化学肥料の成分の1つ。生体内では脊椎動物の骨の主成分がリン酸カルシウムだし、DNAの重要成分でもあります。墓場のヒチダマは遊離したリンが燃えているのだといわれています。土中や水中では存在比が高い方ではなくそれ故肥料の主成分となっていますが、限度を超えるとしばしば生態系の崩壊につながります。アオコの発生などがそれです。以前は洗剤にも多く含まれていたため水質汚染の原因となりましたが、現在は多少改善されました。それでも河川や海の水質汚染の主要原因は家庭排水であるといわれています。

COD: 化学的酸素要求量。(Chemical Oxygen Demand)  
水中の有機物や前述の亜硝酸、硫化物(硫黄の化合物)を酸化するのに必要な酸素の量ですが、だいたい水中の有機物量の指標と思って良いです。BODとの違いは、BODは生物分解性有機物量の指標ということ。BOD測定器は非常に高価で私には手が出ませんでした。ただ、一般的にはCODの方が大きな数値となることは自明なので、これで我慢することにしました。(つづく)

### <総会のご案内>

日時: 2022年5月29日(日) 13時30分~15時  
会場: 千葉市民活動支援センター会議室  
(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)  
内容: 2021年度の活動実績報告・会計報告, 2022年度の活動計画・予算などの審議。参加費無料。

※正会員の皆様はご出席よろしくお願いたします(総会資料は別にお送りいたします)。欠席される方は同封の委任状をお送りください(郵送またはFAXまたはメールで)。なお総会はオブザーバーとしてどなたでも参加できますが、その際は小西(090-7941-7655)まで事前にご連絡ください。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2022年 6月号(第298号)の発送を 6月6日(月)10時から千葉市民活動支援センター会議室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

あなたも入会しませんか ..... キリトリセン .....  
住所〒

ふりがな  
氏名 \_\_\_\_\_ 男女 Tel \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。(カット:こまちだ たまお)

編集後記: 新緑がまばゆい季節になりました。多くの人に谷津田を知っていただくため今年は地元の伊勢戸銘木店さんにご協力いただき「谷津田ビジターセンター」の開設を目指します。若葉区地域活性化支援事業の支援をいただき谷津田に関する資料の収集やクラフト体験などを通して、保全活動参加へのはじめの一步を踏み出すきっかけとなれればと思っています。 mud-skipper



すみ小両校について、例年通り、田植え、草取り、案山子づくり、稲刈り、脱穀を実施することで、日程が決まりました。今期は計画通り進んでほしいと願うばかりです。

## ○ 小山町 Y P P 「苗代の管理と畦、水路の整備」4月期常時

報告：赤シャツ親父

3月26日から4月2日にかけて、各田に作られた苗代ですが、田植えまでに十分育つ様に、ほぼ毎日、畦、水路の問題箇所を修理したり、エルボを調整するなど水回りと水位調整に気を配る事となります。10日～16日にかけて、気温は25℃近くから10℃以下まで変化が激しく、また4月前半、後半にはまとまった雨が度々降りました。案の定、畦の決壊、漏出などが頻出し、苗代が水没したり水位が低すぎたりとの状況は度々発生しました。なお、5月初旬に田植を計画している大椎小の苗代については、4月10日～27日にかけて育苗シートをかけ発育を促進しました。今のところどの苗代も順調に育っている様です。

### 【谷津田・季節のたより】

#### <下大和田町>

- 4月 ・シュレーゲルアオガエルの産卵が始まりました。
- ・ニホンアカガエルは後ろ足が出て、そろそろ陸上生活が始まります。
- ・キビタキが盛んにさえずっています。

#### <小 山 町>

日々、ガビチョウの声目立つ。4月9日、シオヤトンボ羽化確認（赤シャツ親父）

4月19日 キビタキの声響く（赤シャツ親父）

4月23日 孵化して間もない様なクサガメの赤ちゃんが現れた（たんぽぽ）

## 【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

### <下大和田谷津田>

#### ・森と水辺の手入れ

日 時：2022年 5月15日（日） 9時45分～12時 雨天中止

内 容：森の散策路の整備をします。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

#### ・森の手入れ

日 時：2022年 5月22日（日） 9時45分～12時 雨天中止

内 容：落ち葉を集めてカブトムシが卵を産んで、幼虫やさなぎが育つ場所を作ります。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

#### ・第278回 Y P P 「田の草取り」

日 時：2022年 6月 4日（土）9時45分～12時

内 容：田んぼや畦に生えている雑草を取り除きます。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、田んぼ用長靴、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：米づくり年間参加者以外300円（小学生以上）※持ち物は以下の5月7日の田うえ作業も同じです

#### ・第269回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日 時：2022年 6月 5日（日）9時45分～12時 雨天決行

内 容：緑深まる晩春の谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物：マスク着用、筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物

### <小山町谷津田>

#### ・小山町 Y P P 「コシヒカリの田植え」 今期最初の田植えを行います。

日 時：2022年5月14日（土）10時00分～ ☆小雨実施。

場 所：りんどう広場

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、tomizo\_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡下さい。

